

令和7年度 第1回守山市総合教育会議 会議録

【日 時】 令和7年11月10日（月） 午後1時30分から午後3時まで

【場 所】 場 所：守山市役所3階 33・34会議室

【出席者】 森中市長、辻本教育長

教育委員（福田委員、吉田委員、高倉委員、岩井委員）

【事務局】 神藤教育部長、池田教育部理事、中野教育部次長（教育総務課等担当）、大崎教育部次長（学校教育課等担当）、吉澤教育部次長、池田教育部次長、長谷川総合政策部長、森口総合政策部次長、木ノ切こども政策課長、川中社会教育・文化振興課長、寺畑教育総務課長

【特記事項】 非公開で開催

【会議内容】

1 開 会

2 あいさつ

3 議題

学びを豊かに支える

～多様な人々と共に育む、子どもたちの居場所と学びの広がり～

・小学生の放課後の居場所づくりについて 資料1

・地域学校協働活動の取組について 資料2

4 閉 会

発言者	議事内容
教育部長	<p>守山市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>初めに、本会議の開会に当たりまして、守山市総合教育会議運営要綱第2条で定められております市長、教育長の出席、過半数の教育委員の出席の条件を満たしておりますことから、本会議は有効に成立いたしますことをご報告いたします。</p> <p>まず、開会に当たりまして、森中市長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
市長	<p>皆さん、こんにちは。市長の森中でございます。大変お忙しい中、総合教育会議にご出席賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>今回、岩井委員を新しく教育委員にお迎えいたしまして開催させていただきますが、この総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき開催するもので、教育施策に関する重点的な施策等について、教員委員の皆様と教育長、そして私も交えて意見交換をし、守山の教育のあるべき姿や方向性等を共有して、互いに連携を深めていくといった会議であると認識をしております。</p> <p>本日の議題は「学びを豊かに支える～多様な人々と共に育む、子どもたちの居場所と学びの広がり～」と題し、「小学生の放課後の子どもの居場所づくり」と、「地域学校協働活動」について、今後の方向性等を協議させていただければと思っております。</p> <p>1点目の「小学生の放課後の居場所づくり」でございますが、私も市長に就任して、3年弱たつますが、様々な場面で子どもの居場所をどのように用意しておこうかというお話をたくさんいただきます。「居場所」というと広い概念なので、本当に様々なパターンがあると思いますが、そうした中で、中洲小と玉津小で議論させていただいていることは、子どもたちにとって一番親しみがあり安全な場所である学校で、学童に通っていない子どもも含めて、安全な居場所を作ったらどうかと検討しているものです。</p> <p>今回、学校を活用した放課後の居場所ということをテーマに上げていますが、それに限らず、子どもの居場所は本当に様々な概念があると思っています。この市役所の1階の多目的ホール</p>

は、机と椅子を自由に開放しているので、最近はテスト前など、子どもたちも市役所に来て友達と勉強したりしていますし、図書館でも学習コーナーを午前午後の入替制にして、より多くの市民の方が使えるようにしたり、多目的の部屋でも、前日までに予約が入らなければ、全てオープンにして、主に中高生を想定していますが、勉強したり、友達同士で遊んだりといった場にできるようにしています。それも定着してきて、結構利用があると聞いています。

それから、市民ホールが今、大規模改修を予定していますが、その改修の中に、ホールに用がなくても、Wi-Fi環境を整え、お茶が飲めるなど子供も大人もホールに集まって交流するような居場所という形も作っていくなど、様々な形で居場所を作っていく必要があると思っていますし、また不登校の子の居場所や、学習支援をする場所など、色々な意味の居場所があると思っています。

そういう中で、今回はまずは放課後の学校活動としての居場所ということでご議論いただければと思っています。

もう1点目の「地域学校協働活動」については、少し堅苦しい言い方なので、僕は「こども応援団」という言い方でずっと話していますが、地域の皆様と学校との関わりについて、セキュリティの問題や、地域の方の意識や生活様式の変化など、様々な要因があるなか、昔よりも減っており、地域と学校の関わりが失われています。学校側も、なかなか学校だけではできないこともあるので、ぜひ子どものために地域のお力も借りたいということもありますし、地域の方も、子どものためならという方は多くいらっしゃいます。そこをどうマッチングしていくのかということがなかなか難しいなと思っている中で、この「こども応援団」の事業については、昨年度から全校で広げて、それぞれの学校の状況、特色に応じて進めています。またその学校の先生が異動したから継続しないとなると困るので、一定の安定感を持って続けていくためにはどうしたらいいかということも含めて議論していく必要があると思っています。

いずれにしてもやはり地域の皆様に子どもたちと一緒に育てていただくという観点も含めて、ぜひこの「こども応援団」もしっかりと全校で進めていきたいという思いでございますので、そういったことも含めて忌憚のないご意見を賜りたいと思って

	<p>おります。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願ひいたします。</p>
教育部長	<p>まず、議事に入ります前に、この会議は要綱第3条によりまして、原則公開ではございますが、市議会の子育て対策の特別委員会に諮る案件が含まれてございますので、非公開とさせていただきます。</p> <p>なお、議事録につきましては要綱第6条によりまして作成し、特別委員会が終了後、同条第2項によりまして出席者の皆様の承認を得た後、公表をさせていただきます。</p> <p>次に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>お送りさせていただいておりますのが次第と出席者名簿、守山市総合教育会議運営要綱、本日の資料1、資料2でございます。</p> <p>それでは、要綱第3条によりまして、会議の進行につきましては市長が行うとございますことから、これより市長のほうにお願いをいたします。</p> <p>よろしくお願いします。</p>
市長	<p>それでは、会議の進行をさせていただきます。</p> <p>着座で失礼いたします。</p> <p>次第に沿って、議題「学びを豊かに支える～多様な人々と共に育む、子どもたちの居場所と学びの広がり～」として、小学生の放課後の居場所づくりと、地域学校協働活動の取組について、ご協議いただきたいと思います</p> <p>まず、「小学生の放課後の居場所づくりについて」事務局から説明をお願いします。</p>
こども政策課長	<p>【こども政策課長が資料1により説明】</p>
市長	<p>それでは、ただいまの説明に加えまして、学校現場の意見等、教育委員会事務局から補足説明をお願いしたいと思います。</p>
教育部次長(学校 教育課等担当)	<p>現在、当該学校の管理職にプロジェクト会議に出席してもらい、視察に同行いただくなど、実際の様子を見て、事業について</p>

	<p>の理解を深めてもらっているところです。</p> <p>また、こちらからも学校へ出向き、管理職以外の教員への説明や協議の時間を設けながら率直なご意見を伺っております。</p> <p>先日も資料1に記載の児童・保護者アンケートの結果を共有しながら、この事業の必要性やニーズについても感じてもらったところです。</p> <p>その一方で、教員からは放課後に子どもたちが長時間学校に残ることへの影響や、教員の業務負担が増加するのではないかという点、また下校時の児童の安全確保といった点については懸念の声もいただいております。</p> <p>こうした声に対しては、他市の先進事例等を紹介したり、実際の運営では事業者が主体的に対応を進めていく点を伝えたりしながら、学校が安心して取り組めるイメージを少しづつ持っていただけるよう進めているところです。</p> <p>今後も引き続き現場の声を丁寧に吸い上げ、合意形成を図りながら事業のさらなる具体化と改善にしっかりと取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>以上補足説明とさせていただきます。</p>
市長	<p>それでは、小学生の放課後の居場所の件について、ご意見、ご質問等ございませんか。</p>
高倉委員	<p>7ページの「放課後児童クラブ」と「子どもの居場所」の違いの表中「一日の活動内容」で、児童クラブは複数名の支援員の支援のもと、と記載があり、「子どもの居場所」では大人の見守りはある中、と記載されています。この支援と見守りの違いを教えてください。</p>
こども政策課長	<p>まず、「放課後児童クラブ」は、放課後支援員として資格を持った方が、日課に沿って、おやつの提供や、宿題や遊びについてこどもたちと一緒に関わってもらえるところが大きい部分かと思います。</p> <p>「子どもの居場所」については、子どもの過ごし方は、基本的に子どもたちが決めるため、大人は危険がないかを見守るという程度の関わりである点で違いがあると考えています。</p>

高倉委員	同じ空間にいるというだけであって、何かトラブルがあれば仲裁には入るのですか。子ども同士の揉め事などがあれば、対応してくれるのですか。
こども政策課長	子どもの居場所であっても児童クラブであっても、子ども同士のけんかやトラブル、体調不良等の対応はさせていただきます。
高倉委員	<p>中洲小学校付近の様子を知っていますが、登下校にかかる時間は、10分以内の子もいれば、30分ぐらいかかる子もいる。もし17時まで「放課後の居場所」で遊んだとして、そこから野洲川沿いの街灯の無い暗い道を、一人で歩いて帰らせるのは心配です。</p> <p>また、夕方の一番忙しい時間に、保護者が迎えに行くということは、保護者にとっては負担だと思います。</p> <p>17時までということですが、6時間目の場合であれば、15時50分に集団下校であり、1時間だけ遊ぶために学校にいる必要があるのでしょうか。本当に遊びたい子は、家に帰ってから友達と約束をして遊んだりしているので、そこまでして子どもの居場所を保護者が求めているのか疑問を持ちました。</p>
こども政策課長	<p>アンケートでも結果が出ていますが、守山市内は集団下校ですので、保護者の迎えが基本となります。例えば、保護者の帰りが遅い日だけなど、不定期に学校に残ってから安心な時間帯に帰る、というような、児童クラブとは違うニーズがあると考えています。冬場は、17時になると外は暗いので、そういう場合は16時半までであれば一人帰りを可能にするというように運用はこれから決めていかなければいけないと思っています。</p> <p>一方で、居場所の運用を19時や20時にして、保護者のお迎えを必須としまいますと、児童クラブとの差が出てこないことになりますので、学童よりも早い時間帯で、安全な人は自由帰りも可とする形での居場所づくりをしてみたいということで検討しているところです。</p>
市長	下校の問題はしっかり検討する必要があると考えています。

	<p>学校から自宅までの距離によっても状況は違ってきますし、1人で下校する場合は、基本的に保護者に迎えに来てもらうことを前提に制度設計しています。ただ、高学年であれば、1人でも帰れるという子もいるかもしれませんし、周辺環境や子どもの状況などを踏まえながら、子どもたちの安全が確保できる状況の中で遊べるように、検討が必要だと思っています。</p>
吉田委員	<p>児童クラブのニーズが高い理由は、やはり預けられる時間かと思います。</p> <p>資料の18ページのアンケートを見て、居場所の想定が17時までだからだと思いますが、アンケートの選択肢は17時までしか書いていないので、選択肢に19時までとすれば、結果が変わってくるのではないかと思います。</p> <p>現在、日本は人手不足もあるし、女性の社会参画が進んでご両親とも仕事で働いていることが普通になっている。パートタイムであれば、子の下校時間に合わせて勤務時間を選択されている方が多いとは思うが、正社員の場合は、17時のお迎えは難しいと思います。</p> <p>児童全体の居場所づくりではなく、児童クラブと放課後の居場所を一本化してしまって、19時まで預かるとすると、ニーズがあるのではないかでしょうか。</p> <p>もう一つは、料金についてのアンケートについて、質問では設問が5,000円以上になっている。5,000円は高いが3,000円ならという風に回答が落ち着くのは、おそらくアンケートの仕組みとしてはそうなると思います。</p> <p>ところが、19時まで預けて利用料金は1万円とした場合に、どれぐらいのニーズがあるかを調べてみると、子どもたちも保護者も安心して預けられる、皆が望まれるような制度になるような気がします。</p>
市長	<p>学童との違いが分かりにくく、それなら一緒にしたらどうかという議論は当然あります。</p> <p>ただ、現在放課後児童クラブを希望される方の受け入れはなんとかできている状態であると認識していますが、高学年になればなるほど、習い事など放課後の予定が増え、学童へのニーズは減ってきます。一方で、毎日ではないけれども、習い事な</p>

	<p>どが無い日だけ、みんなで集まって遊ぶというように、学年が上がるにつれて放課後の過ごし方が変わってくるという認識もしています。</p> <p>アンケートの問い合わせによって結果が変わるのはまさに委員のおっしゃるとおりですが、今回のアンケートが全てではなく、学童よりも緩い形態の居場所を想定しているので、学童並みのことを高学年までに広げるということは今のところは考えていません。ただ、運営していく上で、やはり19時まで運営してほしいとか、そういう声が高学年でも多くなれば、検討する必要はあると思います。</p>
吉田委員	<p>資料8ページの玉津小と中洲小の児童クラブの状況について玉津の場合は、定員が80名に対して116名、中洲の場合は40名のところが52名で、いわゆる定員オーバーになっているということですね。</p> <p>ですから、そこにニーズがあるなら、そのニーズに合わせていくことが賢明かなというふうに思ったわけです。</p>
市長	<p>おっしゃるとおりで、玉津は現在、過密状態なので、地域総合センターの和室を使って、もう1つ学童を増やしていくかどうかという議論もしていたところです。</p> <p>その中で、新しい児童クラブを建てるぐらいなら、特別教室や空き教室を使って、学童までは必要ないけれども、時々預けたいというニーズを受け入れることができないか、ということでこの議論がスタートしました。</p> <p>学校現場の理解をいただき、様々なニーズを聞きながら、まずは学童とは違うライトな居場所を学校を使って進められないかと思っています。</p>
福田委員	<p>料金について、放課後の居場所の場合と、学童の場合で、何が違うのですか。どちらも事業者が入るのに、学童なら1万円かかるところを、居場所の場合は3,000円で運用できるのですか。料金の配分について、分かる範囲でいいですから教えていただけたらと思います。</p>
こども政策課長	<p>まず、放課後児童クラブですが、現在、1クラスおよそ40人</p>

	<p>の児童に対して、支援員を4人配置する形で委託しています。その人件費に当たる経費が大きくなっています。それ以外に、ゲームなど、様々な準備物等必要な経費を試算し、全体にかかる経費に対して、市からの委託料と、利用料とを併せて運営をしていただいている。</p> <p>おやつ代については、この1万円とは別に月額2,000円を徴収しています。</p> <p>居場所の利用料については、これから委託料の積算をしますが、支援員ではなく、大人の見守りとすることで、学童であれば4人の支援員が必要であるところを、居場所では見守りの方は2人とするなど、人件費の部分が変わってくると思います。</p>
福田委員	まだ利用料は定かではないというところでいいのですね。
こども政策課長	そうです。
福田委員	帰宅時の安全性について、保護者が迎えに来れないなら、家まで送っていくべきだと思います。
	1人で帰らせるというのは、やはり危ないと思います。世間からも反発があるのではないかと思う。
	だから、利用料を何にあてて運営するかということをもう少し検討しないといけないかなと思います。
市長	我々も下校の問題については議論を重ねていますが、資料の19ページのアンケート結果では、保護者のお迎えであっても、居場所を利用したいという声が多かったので、保護者による迎えを基本とするのがいいと考えています。
	ただ、一人帰りのときに事故が起きたら問題なので、送迎をするとなりますと、この料金設定では難しく、利用料については慎重に議論しながら、どうやって安全を確保していくのか検討が必要だと思っています。
	利用料については、先進地の枚方市では無料ですが、学童の利用料も安い。つまり、利用料で賄えない分は税金を充てています。本市は学童では1万円の負担をいただいているので、放課後の居場所の利用料を安く抑えるために、人の配置を、学童よりは緩くして、資格を必須とせず、この後のテーマの地域

	学校協働活動でもありますが、例えば地域の方と連携して見守りをしていただくという形も考えています。
福田委員	<p>それが一番だと思います。老人クラブや自治会の方々が、登下校時の見守りをされていますし、子どもを一人で帰すのではなく、地域の方々と一緒にになって子どもを送っていくというのは1つの案だと思います。</p>
岩井委員	<p>よく検討されたことだと思いますが、放課後の居場所と学童について、既に空き教室を使って学童を開設していた事例がありますし、保護者も混同されるのではないかと思います。</p> <p>だから、次のテーマである地域学校協働活動とタイアップするような形で、全く違う視点で運営したほうがいいのではないかと思います。</p> <p>児童クラブであれば、カバンを所定の位置に片づけて、日課に沿って、指導員が指導しながら過ごすことができます。でも放課後の居場所であれば、大人は見守るだけで、子どもたちが自由に過ごすと言っても、トラブルが起きるのではないかと心配します。</p> <p>保護者にとっては、家へ帰ってきてゲームをしたり、テレビを見ているなら、学校でお友達と遊んできてほしいなという思いで、賛成の声が多いと思いますが、送り迎えの問題もありますし、中途半端な状況でスタートすると様々な問題が出てくるのではないかと危惧します。</p>
市長	<p>市の事業とすると、安全面が懸念されますが、基本は、この事業があってもなくても、子どもたちが1回家へ帰って学校で遊んでいるときは、今は誰も見守っていない。何かあれば、学校にたまたま先生がいれば、先生に言うこともあると思いますが、それを事業として進める以上は、しっかり設計しなければいけない。地域の方と連携して見守りに入ってもらうことも一つですが、ただ根本的には本来、子どもたちだけで遊んでいるところに、見守りの人がついて、普段より安全性は増していると思っています。</p> <p>ただ、親御さんたちが混同するというのはおっしゃるとおりだと思っていますので、そこは丁寧に説明していく必要がある</p>

	<p>と思っています。</p> <p>ただ、いずれにても学童はまさに保育ですので、しっかりと資格を持った人がプログラムを組んでお預かりしています。こちらの事業は、あくまで居場所として学校を安全に使ってもらうために一定の見守りをしながら、より自由に学校で遊ぼうという事業なので、そこをどう差別化するか、説明が必要だと思っています。</p>
教育長	<p>私も岩井委員がおっしゃられたように、実際に子どもたちが放課後、学校で何をするのかというのは気になるところではありました。</p> <p>だから、図書室は少なくとも居場所の一つとして入れてほしいなと思っています。</p> <p>子どもたち自らルールを決めて様々な遊びに取り組むということは、最初は何か仕掛けがないと難しいと思っていますし、様々な事例を研究する必要があると思いますが、例えば1時間半も学校にいれば満足する子もいると思いますし、子ども同士が1時間であっても1時間半であっても放課後、自分たちで考えて過ごす時間は大切だと思います。</p>
高倉委員	<p>帰りについては、居場所に参加しない子どもがどうなるかという方が私は気になります。</p> <p>例えば、中洲小は今でも数人で帰っている地区があり、居場所に参加する子がそこから抜けると、1人帰りになってしまいうケースがあるのでないかと気になるところです。</p> <p>もう少し議論しなければいけない要素が多々あるなというふうに改めて感じさせてもらいました。</p>
市長	<p>各委員から様々なご意見をいただきありがとうございます。我々も初めての取組であり、今いただいたご意見も含めて、どういう形で進めていくかということを議論してまいります。</p> <p>まず、一旦このテーマはこれまでにしまして、もう1点、地域学校協働活動の取組についてをテーマにいたします。事務局からよろしくお願ひします。</p>

社会教育・文化振興課長	<p>【社会教育・文化振興課長が資料2により説明】</p>
市長	<p>地域学校協働活動は3年目に入り、全校に拡大してからは今年度で2年目です。それぞれ学校ごとに特色ある活動が出てきており、これからも学校ごとに様々な活動が増えてくるといいなと思っています。</p> <p>委員の皆様のご意見、ご質問等いかがでしょうか。</p>
高倉委員	<p>私は中洲小学校の「こども応援団」に参加し、家庭科の授業のお手伝いに行ったんですけども、子どもたちが知らない大人を見て、丁寧に話そうとか、いつも見ている一面と違う一面も見れたりしてとても楽しく授業をさせてもらいました。</p> <p>その中で、確かに家庭科の授業は実習なので担任の先生だけでは大変な思いをされているなと思い、実習する授業はお手伝いに行く必要性はあったのではないかなと思いました。</p> <p>また、地域の方に協力してもらって様々な体験をさせてもらえると、子どもたちも達成感を味わえると思うので、こうした取り組みが発展していくといいなと思います。</p>
市長	<p>ただ、「こども応援団」は市民の方にあまり知られていないのではないかと思うので、広報活動も頑張ってもらえたたらと思います。</p>
社会教育・文化振興課長	<p>実際に応援団に参加していただきましてありがとうございます。</p> <p>事務局として、地域ボランティアの方の登録について、どのように周知していくこうとしているのですか。</p>
	<p>周知につきましては、取組を進めるうえで大きな課題の一つです。子ども応援団の登録につきましては、既存の団体の方など、今まで小学校、中学校とお付き合いがある方に登録していただくことが第一歩だと考えています。</p> <p>また、今年度は、自治会長会など地域の会議の場で、学校から本事業の目的やビジョンを伝える機会を持つようにし、周知に努めています。</p> <p>さらに9月にこの事業を担当する職員同士で意見交換をしま</p>

	<p>したところ、応援団を募集していることが地域に浸透していないということで、例えば自治会や学区の広報でもっと周知したほうがいいという意見が多く出ておりましたことから、市としても、広報に特集記事を載せたり、事例紹介のような機会を持ってたらと考えているところです。</p>
市長	<p>学校が困っていることや、地域の人と一緒にこういうことがやりたい、ということが明確でないと「こども応援団」を募集して登録してもらっても、活動につながりません。</p> <p>例えば先ほど委員がおっしゃったように、実習等で人手が必要だから、地域の人を募集するとか、子どもたちと一緒にこういうことをやってくれませんか、という募集をすると、登録してもらいやすいのではないかと思います。</p> <p>もちろん学校の負担を軽減するためだけの事業ではないので地域の人に子どもたちや学校に関わっていただいて、地域全体で子育てをすることにつながるように、参加してもらいやすい周知をするといいのかなと思います。</p>
岩井委員	<p>資料7ページに、令和5年に、速野小学校と立入が丘小学校と守山南中学校から事業をスタートしたということですが、これらの学校は中学校区がばらばらですよね。</p> <p>資料9ページに公民館と学校の組合せが載っていますが、守山南中学校であれば守山公民館と小津公民館が関係します。守山中学校であれば吉身公民館と玉津公民館、守山北中学校は河西公民館だけですが、明富中学校だと速野公民館と中洲公民館というふうに、中学校は複数の公民館と関係を持つことになります。この公民館の組合せを見て、中学校区が分断しないように考えられるのがいいのかなと思いました。</p> <p>また、地域の方が具体的に子どもたちと関わることが難しいのかなと思うのは、こういうことができるということをどこに言うと良いのか分からないのではないかと思います。そうすると公民館のコーディネーターの存在が大事になりますが、学校に地域コーディネーターという分掌がありますので、その地域コーディネーターがうまく機能するように、その方にも市が進めようとしていることを伝える必要があると思います。</p>

市長	今の点について担当課、いかがでしょうか。
社会教育・文化振興課長	<p>中学校での取組は、小学校に比べると難しい部分があると認識しております。そういった場合に、公民館のコーディネートが大変重要になると考えておりまして、資料9ページの組合せの表には中学校は主担当の公民館に記載しておりますが、公民館同士も十分連携して中学校と協力して事業に取り組めるように、担当者会議で伝えております。</p> <p>うまくいった例としては、事例紹介にもありました玉津公民館から玉津小、守山中につながって、家庭科の支援を行っている方がおられます。こうした好事例を、ほかの担当者、学校も含めて共有することで積極的な働きかけを行っていただくように依頼しておりますし、これからもそういった視点で進めていきたいなと考えております。</p> <p>加えて、この事業を進めていくに当たりましては、やはり各担当のコーディネート能力、コミュニケーション能力が大変重要だと考えておりまして、ビジョンをしっかりと持ったコーディネーター、あるいは小学校、中学校であれば校長先生、教頭先生がおられると、かなりスムーズに事業が進むということは実感しております。公民館の職員についても能力の高い、できれば年数の長い地域のことをよく知った職員がおりますと、事業がスムーズに進みます。それに加えて、学校と地域のことをよく知っておられる地域の方がこの事業に協力いただければ、理想的な形に近づいていくのではないかと考えておりますので、今年度は学校と公民館でこの事業の計画書をお互いに話しながら形作る、一步進んだ取組をしています。その中で、学校のコーディネーターと公民館、あるいは地域がもっとスムーズに話せる機会をどんどん作ってもらえるよう事業を推進しているところです。</p>
市長	私からも岩井委員のお話に関連してですが、何か事業を行うときに、最初の引き合わせ等は公民館も入ってもらうと思いますが、その後、実際に事業をするときの調整は、学校と応援団の方とのやり取りになると思うので、守山南中には小津小の人しか来ない、ということにならないようにしてもらいたいと思います。

福田委員	子どもたちの意見は反映されているのですか。 この事業が終わった後にアンケートをとるなどされていれば教えてください。
社会教育・文化振興課長	アンケートは、学校単位で感想に近い形でとっています。それが自治会や学区のおたよりで紹介されていることはありますが、この事業に大きく反映しているかというと、まだできていません。
福田委員	中学生ぐらいになると自分たちの意思で動けると思いますので、地域との関わりのところで大人ばかりの頭で考えるのではなく、彼らの意見も反映してあげてほしいと思います。
市長	そこはおそらく各学校はできていないと思うので、特に中学校には伝えて、こういうことを地域と一緒にやりたいとか、そういう生徒の意見もぜひ聞いてあげてほしいと思います。
吉田委員	18ページに表があって、文科省が進めようとしているのは学校運営協議会ということで、令和6年度の市町村教育委員会研究協議会の研究分科会でもテーマになっていました。そこに私も出席させていただき、先進的にこの協議会を活発に行っておられる市町村のお話を聞きました。守山市の場合は、この表のとおり、学校運営協議会は目指すけれども、それまでに地域学校協働活動をしっかりと進めていくこうという方向だと認識していますが、先ほどの事務局からのお話を聞いていると、学校運営協議会のほうを先に進める方がいいのかなというふうに聞こえましたが、その辺りはどのように事務局は考えていますか。
社会教育・文化振興課長	私の説明が分かりにくかったかもしれません、学校の狙いや地域で育てたい子ども像をしっかり持つというところを地域学校協働活動事業の中で充実させた後に学校運営協議会が見えてくるのかなということで考えております。
吉田委員	地域学校協働活動をしっかりと進めていく先に、将来的には学校運営協議会で協議をしながら、子どもたちを育てていくこうと

	<p>いう方向性であることには間違いないということですね。</p> <p>この活動に必要なことは誰が進めるのかということです。いわゆるコーディネーターと言われる方ですけれども、公民館におられる方が今の仕事と兼任してできるような軽いものでしょか。しっかり事業を進めていくためには、それなりの知識、能力、経験そういうものが豊富でないといけないし、絶えず教育研究部門で、育成しないといけない。</p> <p>今は既存のボランティア活動で学校が助かっている部分がほとんどです。</p> <p>しかし、そうしたことを探るためにわざわざこの組織を作っているわけではないと思います。</p> <p>もっと地域の方々が、学校や、子どもたちのことを見て、我々も関わっていこう。</p> <p>これから事業を進めていくためには、実際に機動的に動いてもらう人、いわゆるコーディネーターを、地域の中から発掘していくしかないといけないと思います。</p> <p>どういう方がコーディネーターを務めるのが良いのかということを真剣に考えていかないと、絵に描いた餅になってしまふと残念なことになりますので、しっかりとと考えながら進めていってほしいと思います。</p>
市長	<p>絵に描いた餅にならないようにというのはおっしゃるとおりで、校長先生、教頭先生が異動すると事業内容が変わってしまったということになると、地域の人も困惑されますので、それぞれの学校の特色に応じて、地域とともに進めていく方向性をしっかりとつべきですし、地域の中に学校と一緒にになって課題等に取り組んでいただける方が見つけられるかどうかは大事だと思っています。この学校運営協議会いわゆるコミュニティ・スクールを作ることが目的ではなく、地域と学校が一緒にになって学校を運営し、子どもたちをどう育てていくかを共に考えてくださる体制ができると理想だと思っています。</p> <p>まずはしっかりとこの活動に関わっていただける方をもっと増やしていく必要があると思っています。</p> <p>他に先ほどの「小学生の放課後の居場所づくりについて」のテーマも含めて、またそれ以外のこととも含めて何かご意見、ご質</p>

	問等ありませんか。
岩井委員	6ページの守山市教育方針の中で、「学校・園教育について」と「園」が入っていますが、地域学校協働活動は小学校と中学校だけに限るんですね。それとも、将来的には園児、小学生、と分けるわけではなく、子どもたち全体に関わる事業としていくと考えていますが、その辺りはどうお考えですか。
社会教育・文化振興課長	この活動は令和5年度から始まり、まずは小中学校から取り組んでいるところです。園につきましては、現在、どうするかということは全く決まっておりませんが、今後の検討だと考えております。
市長	地域と一緒にというのは園も一緒にとは思います。 ただ、園側の人手不足や、セキュリティの問題、対象園についても検討が必要だと思いますし、まずは小中学校からということです。 ただ、岩井委員がおっしゃるとおり、地域の子どもは小学生からではなく、幼い頃からずっと地域で暮らしていると思いますので、園も含めて地域の子どもをしっかり応援していくことが大切ですが、まずは小中学校からという認識だと思います。
高倉委員	子どもの下校のことですが、スクールガードさんがいると思いますが、PTAや保護者、敬老会の方がしてくれているようです。放課後の居場所が始まると、今日は何人帰ってくるのか分からないということが起きてしまうのではないかと懸念します。また、共働きで、子どもを学童に入れている方も順番にスクールガードに立っている場合もありますが、せっかく立っているのに、誰も帰ってこないこともあります。 先生方の下校管理も難しいでしょうが、地域の子どもたちの安全を見守ってくれている人たちへの連絡についても検討が必要だと思いました。
市長	守山は各地域でスクールガードさんが通学路に立っていただいている。それで安全が保たれている中で、放課後の居場所が始まったときに、スクールガードさんとの連携をどうするか

ということも非常に重要だと思いますし、普通に下校する子、子どもの居場所の子、学童の子、に分散することで、ますます集団下校しにくくなるという課題がありますので、そこをどう対応していくのか、そこは課題だと思っていますし、検討していかないといけないと思っています。

それでは、今までのご意見を踏まえて教育長、何かござりますか。

教育長

一つ目のテーマであるアフタースクールについては、私はとてもいい発想だなと思っています。家へ帰っても独りで過ごしている子どももいますし、試行錯誤しながら他の子と関わりながら過ごす時間がもっともっと子どもにあればいいなと思っています。下校の件については、いろいろご意見をいただきましたので、しっかり検討してもらいたいと思っています。スクールガードの方はじめ、様々な方が子どもたちの安全を支えている、これが守山の良さなので、そこを生かしつつ、甘え過ぎても駄目ですが、そこはしっかり考えていきたいと思っています。

それから、地域学校協働活動については、組織化をどう進めるのかということが大切だと思っています。私は以前、ある学校で教頭として勤めていたときに、1年間で50人近くの学生ボランティアや地域の方にお願いして学校に来ていただいたことがございます。課題のある子にはしっかりと寄り添ってしゃべってくれたり、教員ではない子どもに近い年齢の学生が休み時間や放課後に、いろんなことをしゃべったりして、子どもは随分満足していたし、それで学級、学校全体の雰囲気が非常によくなったり、あるいは地域の方が学校に来て活動してくださっている姿を見て、感謝の気持ちも育っていったというふうに思っています。

ところが、私が異動したとたんほとんど消滅してしまいました。私が頑張ってやったあれは何だったんだろうと思いましたが、先生にとっては負担だったのかと思ったりもします。

これを持続可能な形にするためには、組織化していくことは非常に大切なことです。

ただ、国の方で言っておられる学校運営協議会は念頭に置い

て進めなければならないと思っていますけれども、その組織をつくることが目的ではなく、どういう構成員で、どういう方にお願いしていけばいいのかをしっかりと考へて、学校がどういうことをしようとしているかを明確にしていく中で組織化を進めていきたいと思っています。

現在、地域学校協働活動として進めていますけれども、国では地域学校協働活動は学校を核とした地域づくりとも言っておりまして、地域と学校が互恵関係になっていかないといけないと思っています。

今日は本当に貴重な意見をいただきましたし、しっかりと考へて進めていきたいと思っています。

市長

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。

教育長と同じ繰り返しになりますが、今日いただいたご意見をしっかりとまた今後の検討に生かしていきたいと思います。ありがとうございます。

教育部長

教育委員の皆様、市長、教育長、ありがとうございました。

熱心かつ貴重なご意見をいただきまして、居場所づくりにつきましても地域学校協働活動につきましても大きなテーマでございますが、こういった事業に取り組むに当たりましては、マーケティングをはじめといたしまして事前の調査、それを進めるに当たりまして関係機関との調整、こういったものが非常に大切であって今日いただきましたご意見も踏まえて、しっかりと関係機関とも調整する中、今後、進めてまいりたいと考えております。

それでは、これをもちまして総合教育会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。お気をつけてお帰りいただきますようによろしくお願ひします。

ありがとうございました。

